
真っ赤な心臓

高木和久

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真つ赤な心臓

【Zコード】

N1841E

【作者名】

高木和久

【あらすじ】

まじまじと見つめ、色々な色が生活を彩っていることに動かされる。世界は真っ白で人生は真っ暗酔っ払いながら最終電車に乗る誰もいないプラットフォームの寂しさ闇夜の神秘あーあわたしは生きている

心電図は三拍子だ。
パン、ポン、ポン
生きている音だ

ハ十一一年目の春、その心臓は床とこの上に眠っていた
寂しそうだった

部屋の中はvacancy(vakancy)（ウ・ヤカンシー）

やがて一人入ってきた。

心電図が波打つ
そわそわと動き、右手に握られたハンカチが揺れる
夕陽がこの部屋を染める

もう一人入って来た

白い服を着ていた。厚い眼鏡を付けていた。

日焼けした手がカーテンを閉めた

最後に彼自身がやつて來た。

涙を浮かべていた

今まで頑張った『ぼく』にお礼を言いに來たと言つていた

世界がまた始まる気がした

八十二年間動き続けた真っ赤な心臓が証言する
一時のまどろみのあと、世界にまた朝が訪れる

彼が証言台から去ると、部屋の中が静かになった
真つ赤な心臓よ 静かに眠れ
真つ赤な心臓よ 今宵の寝床は決まつたか
心臓図はただ黙つて、傍観していた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1841e/>

真っ赤な心臓

2010年12月7日15時17分発行